

一、前河原 村に統て西南にあり、南北二十五間、東西二十間石原村と入合ふ。

一、稲荷の宮 河原村の西北五十間にあり、南北一町七間東西二十二間、草を刈に便よし。石原村と入合。

一、下河原 村の西北一里三十七間に有、南北六十間、東西三十間、草を刈に便よし。石原村と入合。

一、中河原 村の北三町一間に有、東西四十間、南北二十五間、草を刈に便よし。石原村と入合。

一、平右エ門立野河原 村の東北一町三十三間に有、東西二十間、南北十間、村民伝て云ふ、平右エ門と云者此河原に柳をたて刈故に平右エ門河原と名く。石原村と入合。

一、新右エ門河原 村の東北一町七間にあり、東西六十間、南北二十間、草を刈に便よし。新右エ門河原と云謂を不知。

右之原に薬草有、免糸子、茜根、車前草、香薷、五加、活萎、山茨菰、天門冬、忍冬、苦参。

一、狐穴 村の西南三十八間畠の中にあり、年により子を産。

一、代百七十文を出し、沼山村、大野村山に入て薪を伐る。

貞享二年書上げ

#### 中里村 若松より田舎道九里

一、鎮守 稲荷田村山へ引社に被仰付、祭礼九月九日、宮下社家来祭、村社参遊。

一、菩提所 真言宗延命山徳善院、高二石一斗五升二合、御年貢諸役村弁。

一、漆役 十四本分有、蠟漆上納して不足の分代金で上納。

一、村の西北に葭野一ヶ所有、此御役銀八粉宛上納、○大野村へ代二百文出、は柴、かくまを取。

一、同村へ山守給金として代三百六十四文斗出、其次第前に有。

一、出戸田沢村半郷沼山へ代百文宛出、は柴、かくまを取。

一、蟹川村へ代四百文宛年々出、大川船橋渡○家職、繩、蒔、田島稼の間に出不す。